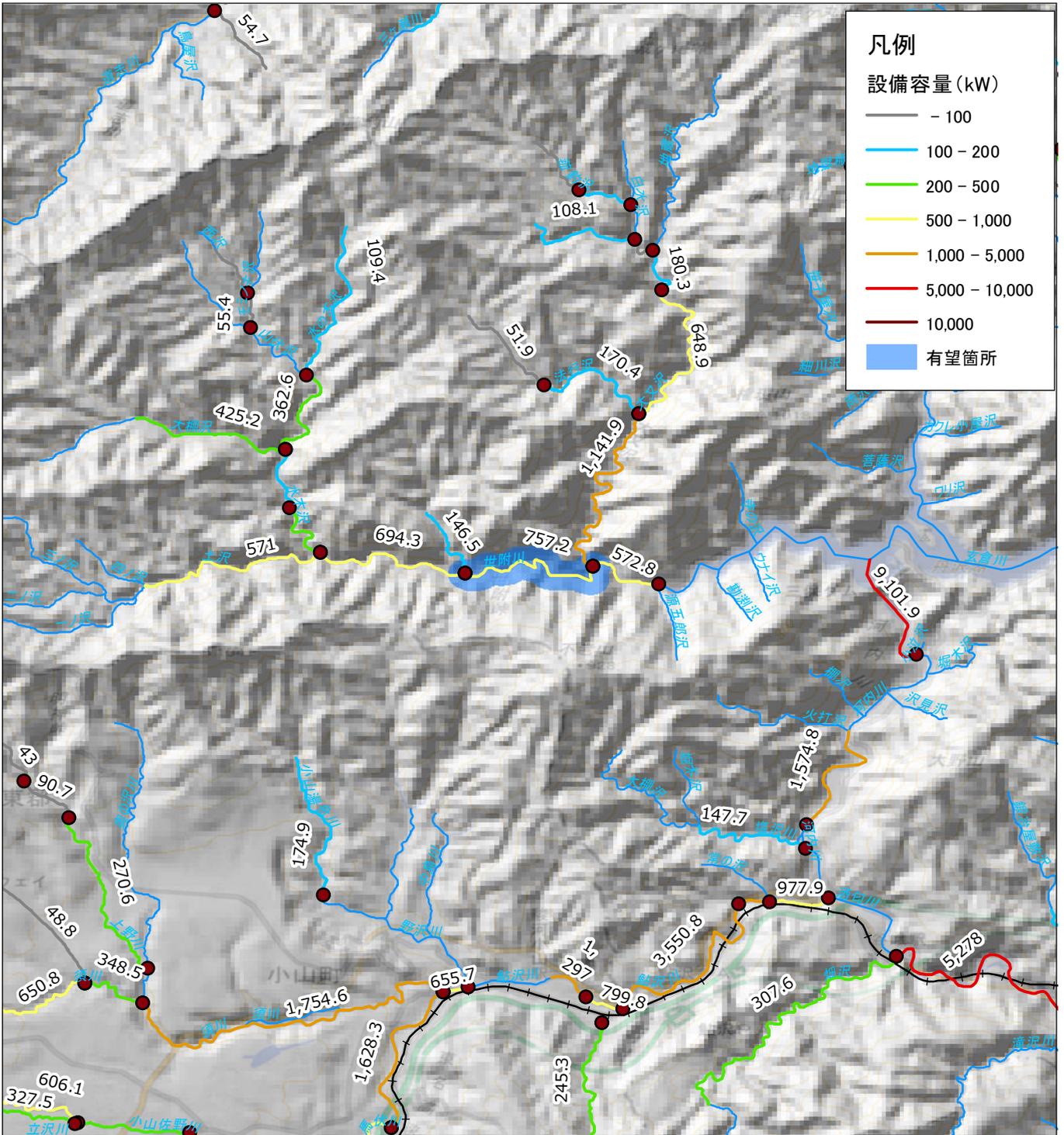


中小水力発電 カルテ

(開発有望箇所調書)

10 神奈川県山北町



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	落合発電所の取水が随所に入っているため、流量が課題である。 勾配・道路アクセスはある。
---------------	--

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	神奈川県山北町	推定流況曲線 ^{注)}
河川名	世附川	
有効落差	42 m	
設備容量	757.2 kW	
設備容量上の最大流量	2.55 m³/s	
年間発電電力量	750 万kWh/年	
概算工事費	1,229 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	三保ダム
所在地	神奈川県足柄上郡山北町神尾田
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

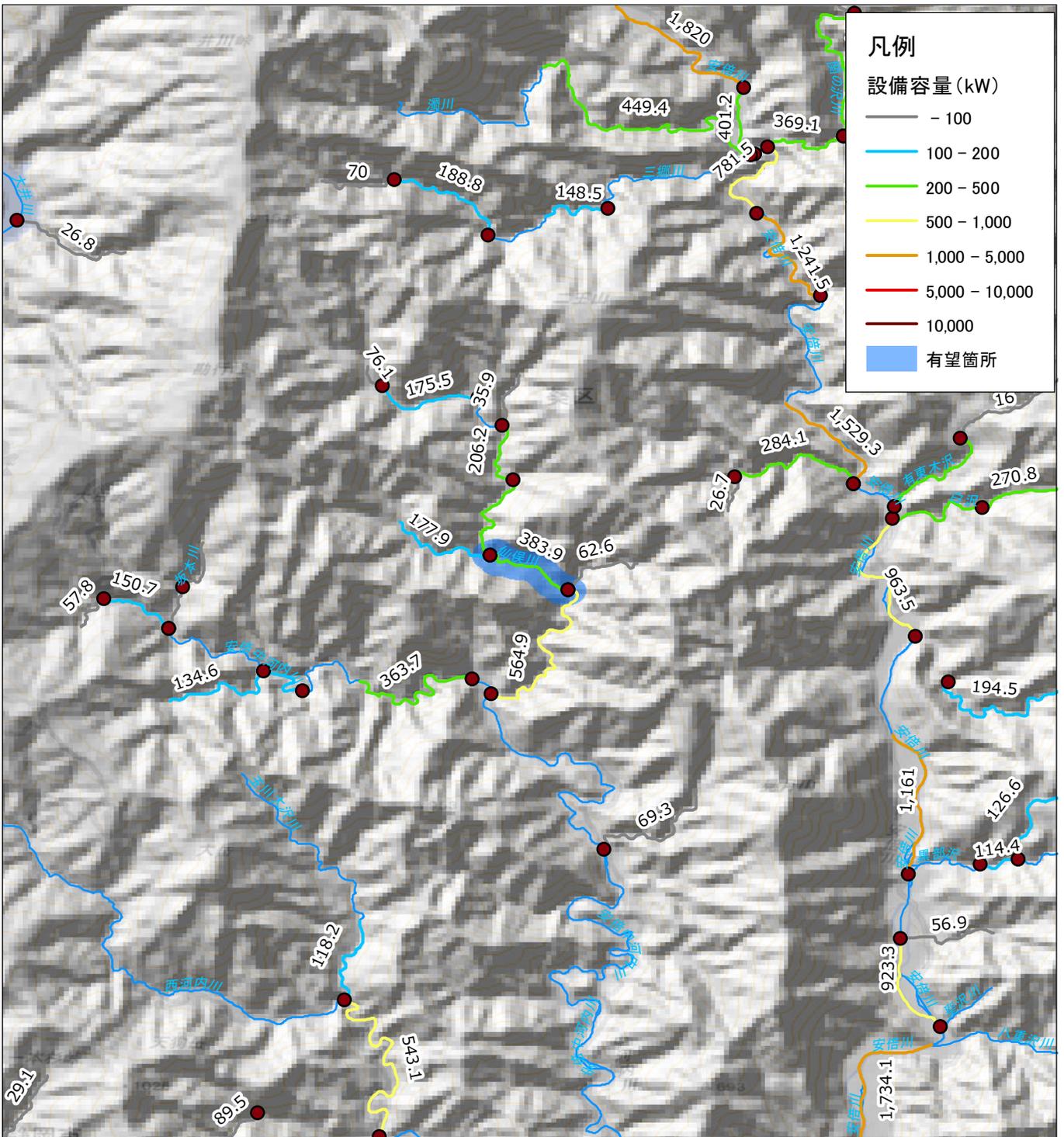
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

中小水力発電 カルテ

(開発有望箇所調書)

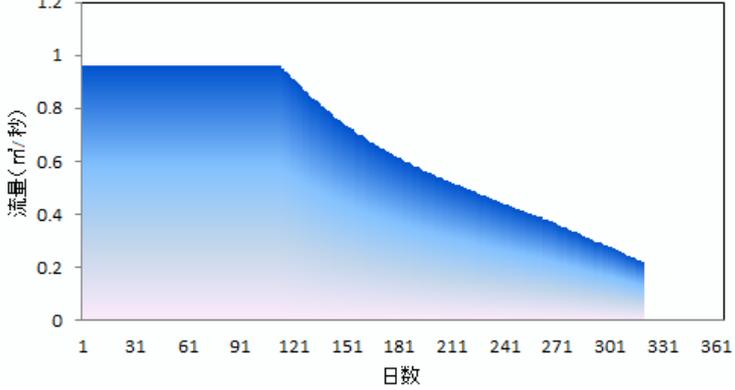
11 静岡県葵区



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	山間地で勾配が大きい。谷が狭いので施設配置が課題である。
---------------	------------------------------

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	静岡県葵区	推定流況曲線 ^{注)}
河川名	仙俣沢	
有効落差	56.7 m	
設備容量	383.9 kW	
設備容量上の最大流量	0.96 m³/s	
年間発電電力量	186 万kWh/年	
概算工事費	543 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	奈良間観測所
所在地	静岡県静岡市葵区奈良間
参照した日流量データ	2005年～2013年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

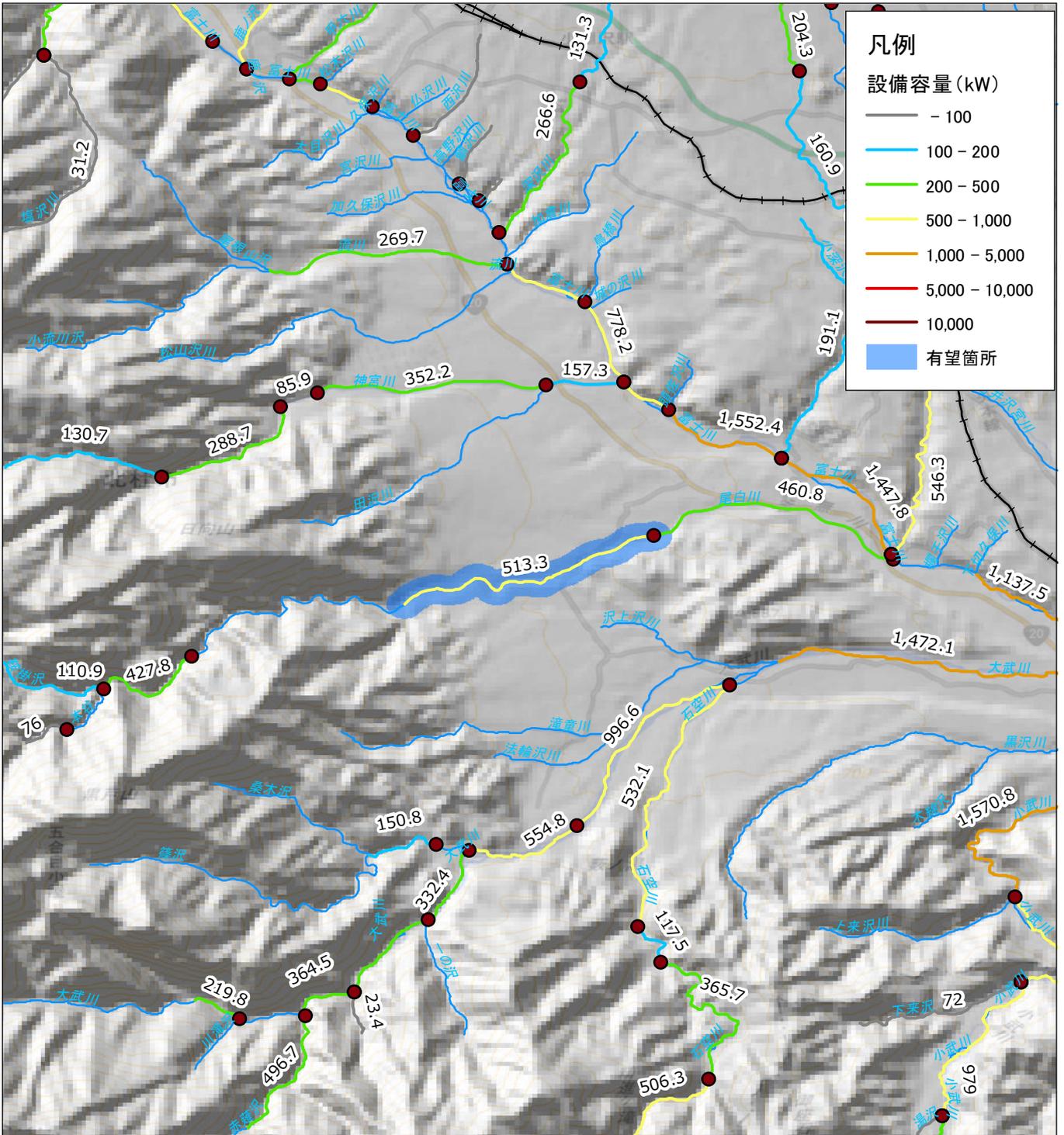
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

中小水力発電 カルテ

(開発有望箇所調書)

12 山梨県北杜市



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者よりコメント	扇状地の要で傾斜・流量があり、砂防堰堤があってアクセスも悪くはない。農業用水との調整が課題。
-----------	--

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	山梨県北杜市	推定流況曲線 ^{注)}
河川名	尾白川	
有効落差	117.6 m	
設備容量	513.3 kW	
設備容量上の最大流量	0.62 m³/s	
年間発電電力量	962 万kWh/年	
概算工事費	741 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	塩川ダム
所在地	山梨県北杜市須玉町比志
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。**

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

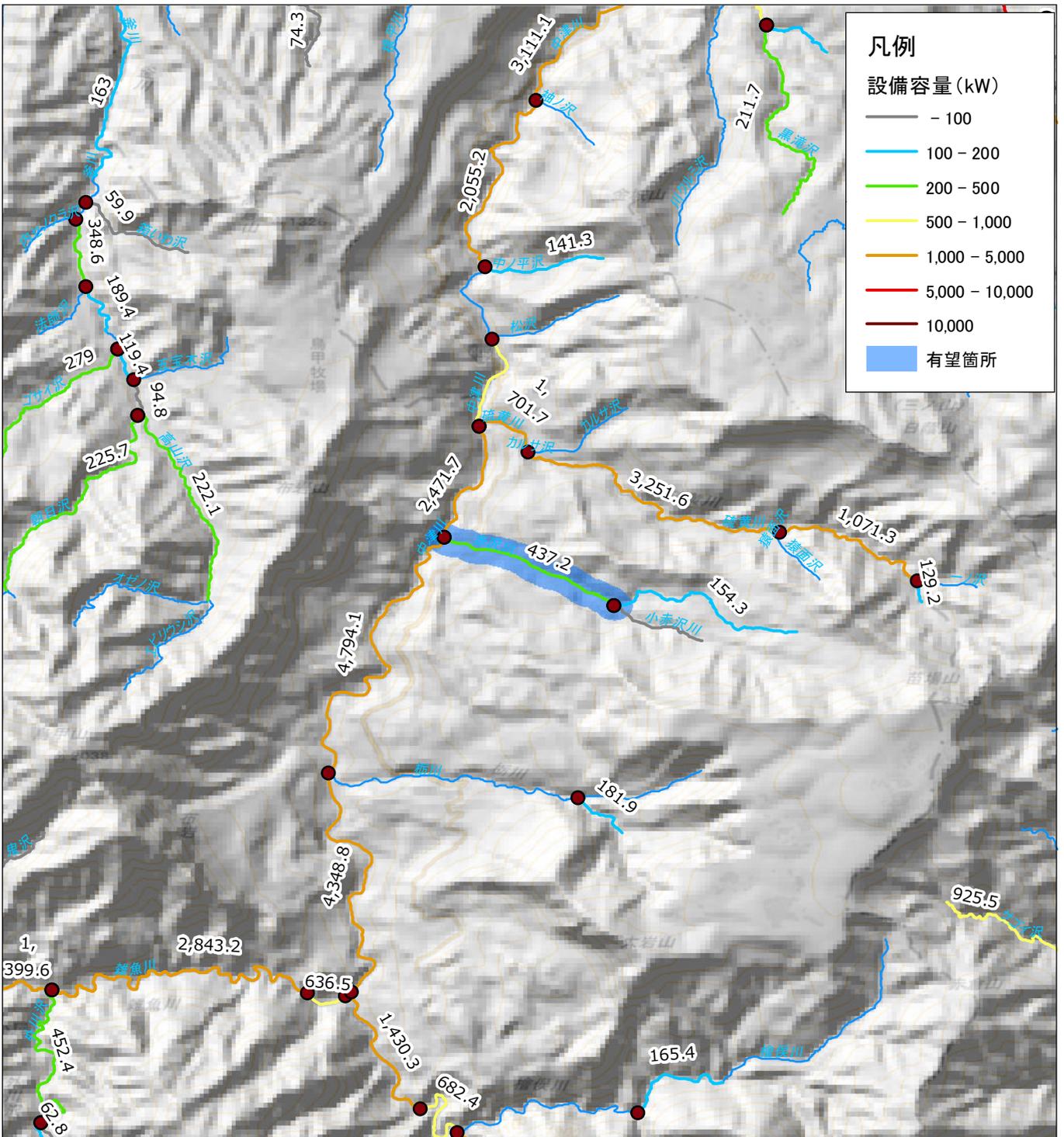
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

中小水力発電 カルテ

(開発有望箇所調書)

13 長野県栄村



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	山間地で傾斜があり、道路アクセスもある。流量も期待できる。
---------------	-------------------------------

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	長野県栄村	推定流況曲線 ^{注)}
河川名	赤沢川	
有効落差	363.7 m	
設備容量	437.2 kW	
設備容量上の最大流量	0.17 m³/s	
年間発電電力量	2,900万kWh/年	
概算工事費	314 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	豊丘ダム
所在地	長野県須坂市大字塩野字栃平
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

作成者よりコメント	勾配があり、流量もある。谷が狭いので取水口と水路ルートが課題である。
-----------	------------------------------------

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	富山県富山市	推定流況曲線 ^{注)}
河川名	黒川	
有効落差	65.9 m	
設備容量	869.8 kW	
設備容量上の最大流量	1.87 m³/s	
年間発電電力量	539 万kWh/年	
概算工事費	1,340 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	熊野川ダム
所在地	富山県富山市手出
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去 10 年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値**であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、**適地選定をする上で有用な情報**となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

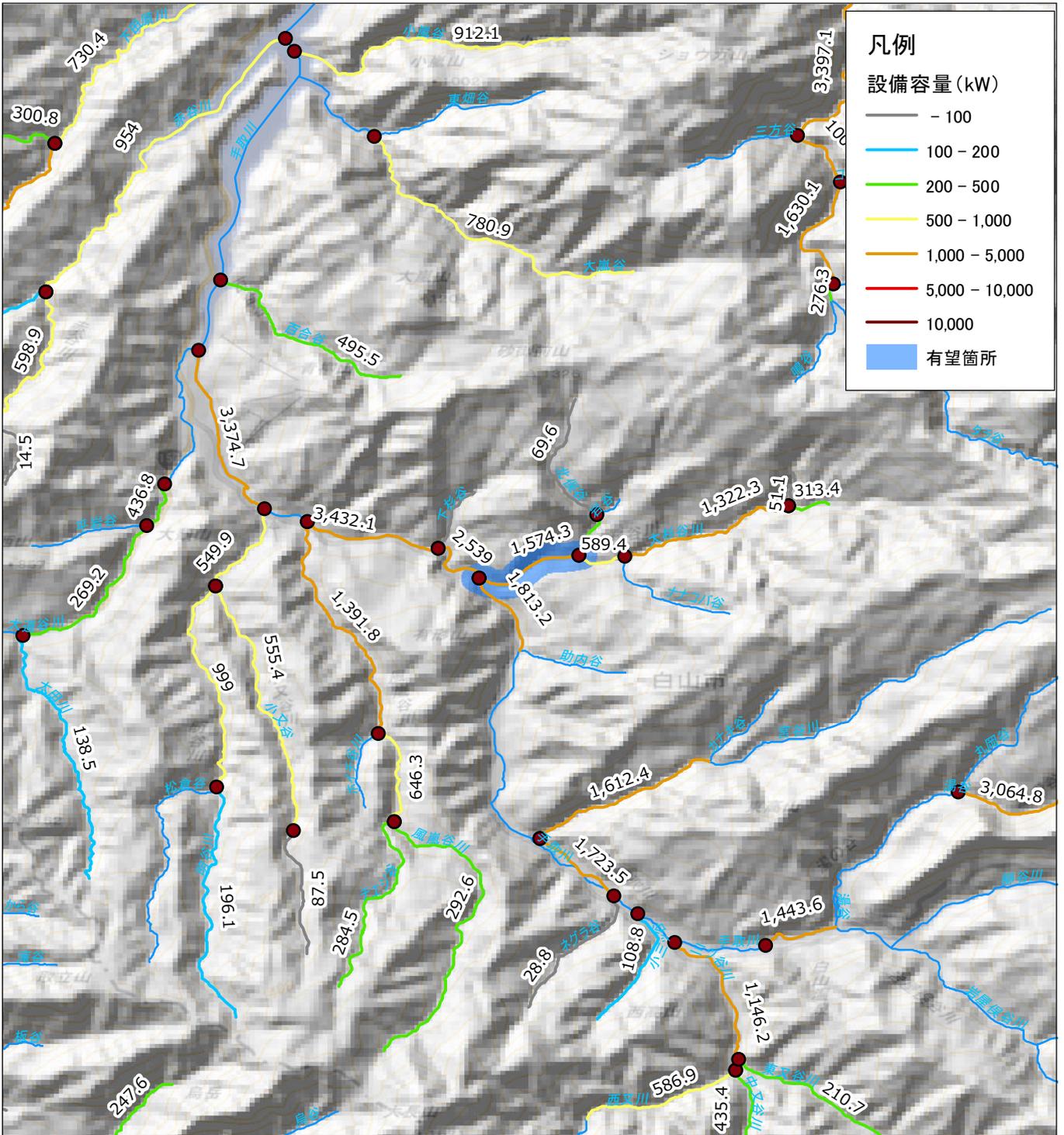
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

中小水力発電 カルテ

(開発有望箇所調書)

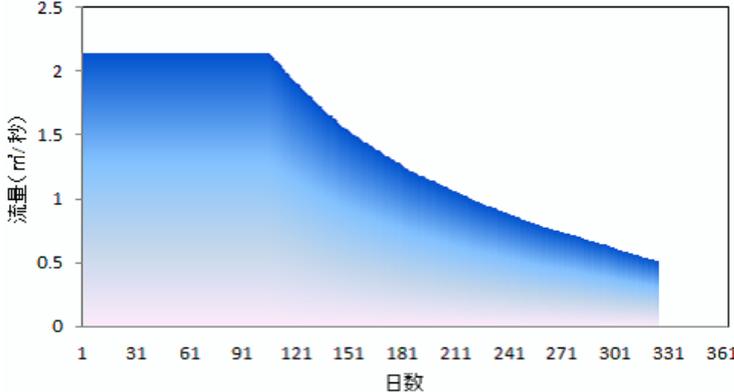
15 石川県白山市



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	勾配が大きく、流量もある程度取れる。道路アクセスもある。
---------------	------------------------------

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	石川県白山市	<p style="text-align: center;">推定流況曲線^{注)}</p> 
河川名	大杉谷川	
有効落差	104.5 m	
設備容量	1,574.3 kW	
設備容量上の最大流量	2.14 m³/s	
年間発電電力量	2,057万kWh/年	
概算工事費	1,030 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	犀川ダム
所在地	石川県金沢市二又新町
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

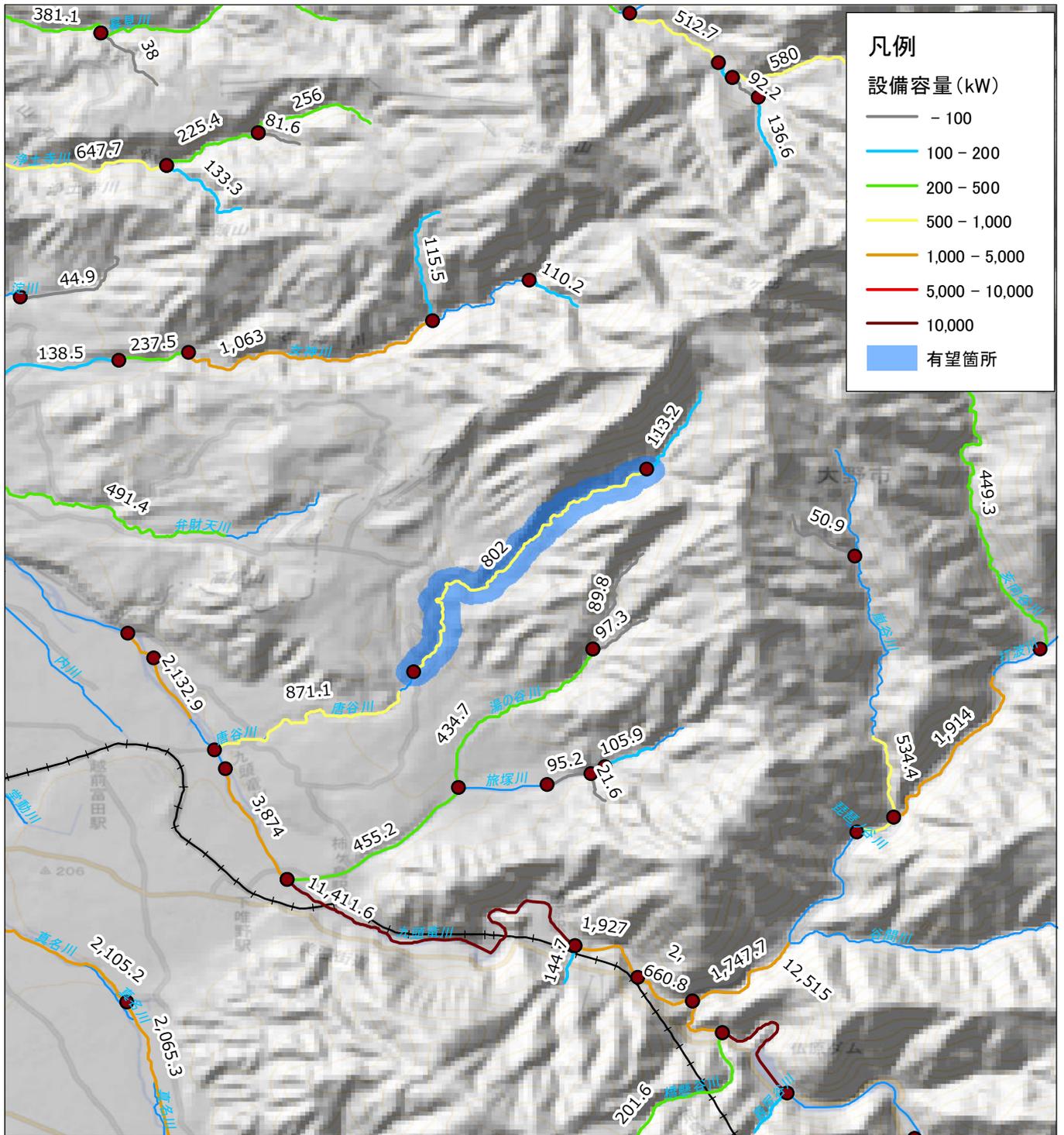
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

中小水力発電 カルテ

(開発有望箇所調書)

16 福井県大野市



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	流量は多くないが勾配が非常に大きく道路アクセスもあるので、適切な部分区間で砂防堰堤から取水し発電することが考えられる。
---------------	---

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	福井県大野市	推定流況曲線 ^{注)}
河川名	唐谷川	
有効落差	455.6 m	
設備容量	802 kW	
設備容量上の最大流量	0.25 m³/s	
年間発電電力量	463 万kWh/年	
概算工事費	627 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	笹生川ダム
所在地	福井県大野市本戸
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値**であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、**適地選定をする上で有用な情報**となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

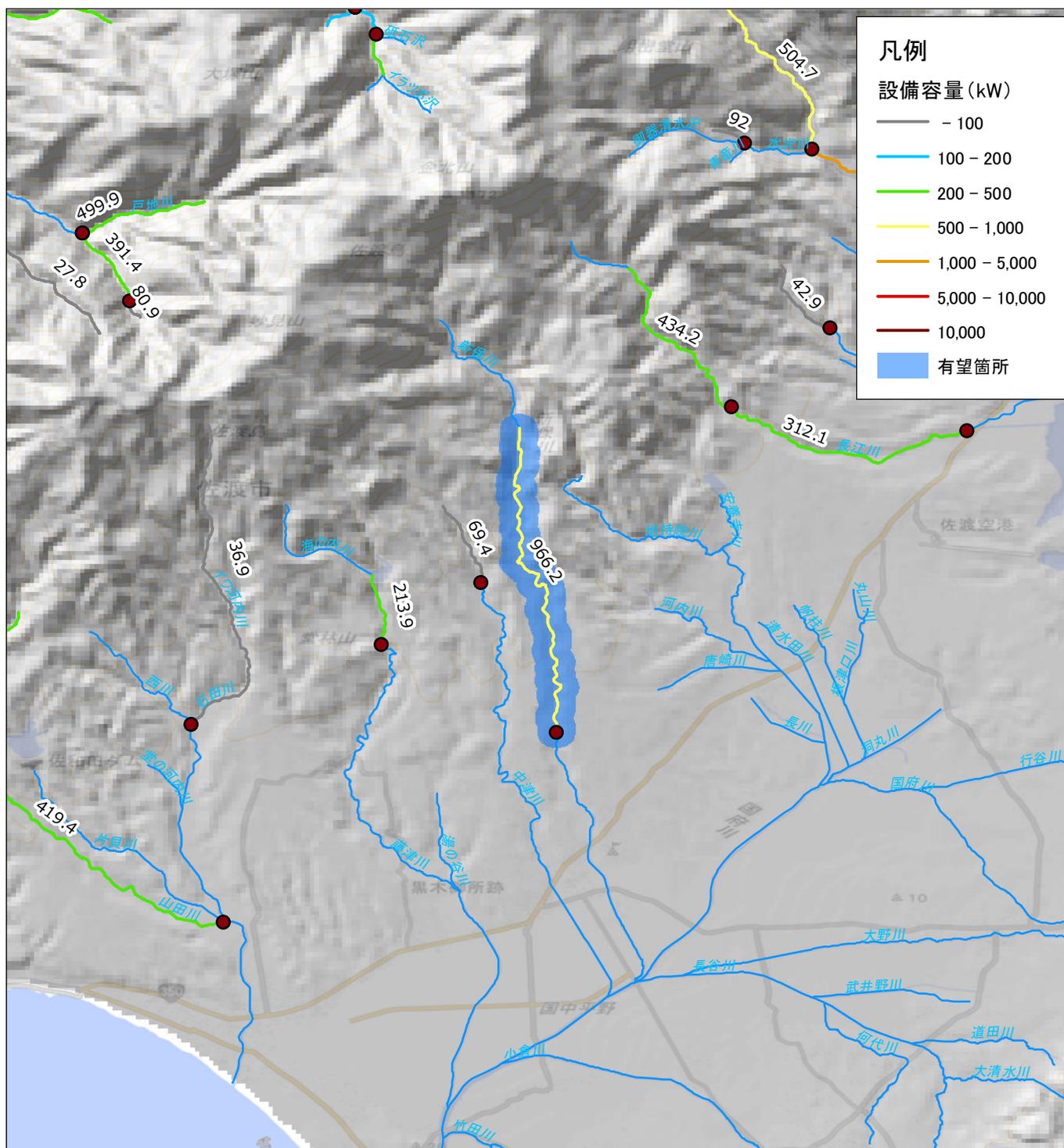
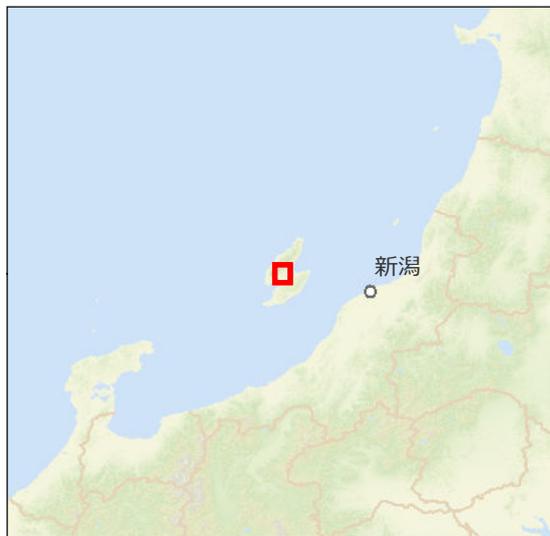
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

中小水力発電 カルテ

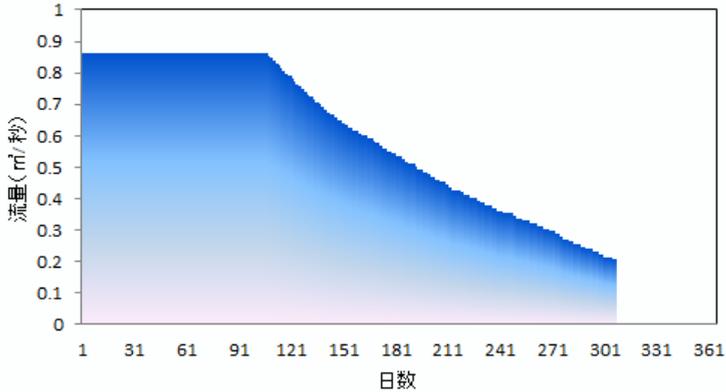
(開発有望箇所調書)

17 新潟県佐渡市



作成者よりコメント	既設発電所下流の溜め池を利用。農業用水との調整が課題である。周辺にも類似河川あり。
-----------	---

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	新潟県佐渡市	推定流況曲線 ^{注)}
河川名	新保川	
有効落差	158.6 m	
設備容量	966.2 kW	
設備容量上の最大流量	0.86 m³/s	
年間発電電力量	574 万kWh/年	
概算工事費	1,186 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	新保川ダム
所在地	新潟県佐渡市大字千種
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

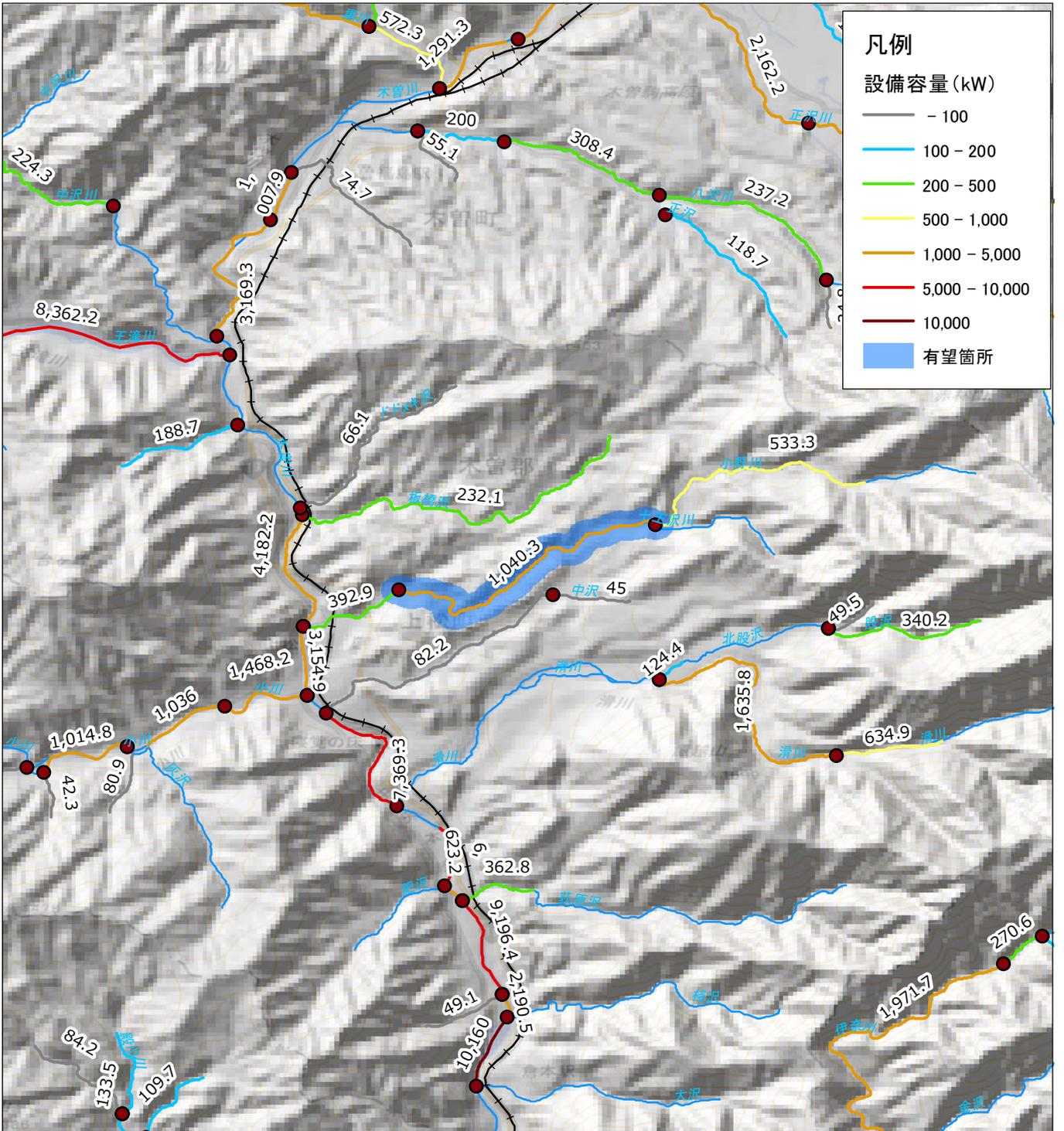
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

中小水力発電 カルテ

(開発有望箇所調書)

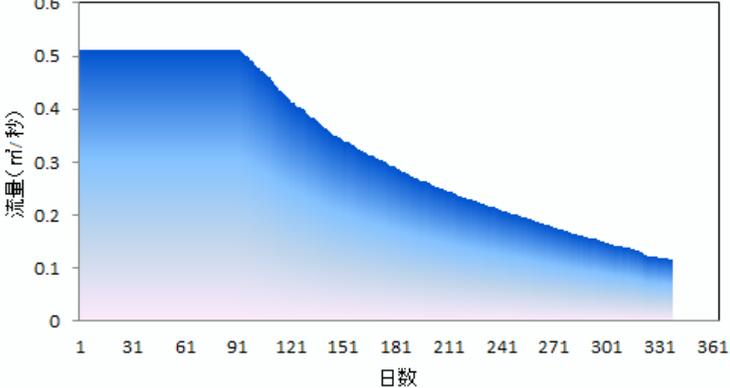
18 長野県上松町



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	上の集落と下の集落の間に大きな落差がありその間に道路があるので、施設配置が容易と予想される。流量もある程度期待できる。
---------------	---

● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	長野県上松町	<p style="text-align: center;">推定流況曲線^{注)}</p> 
河川名	十王沢川	
有効落差	288.5 m	
設備容量	1,040.3 kW	
設備容量上の最大流量	0.51 m³/s	
年間発電電力量	610 万kWh/年	
概算工事費	840 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	味噌川ダム
所在地	長野県木曽郡木祖村小木曽
参照した日流量データ	2003年～2012年

本カルテの説明、データの使い方

① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値**であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、**適地選定をする上で有用な情報**となりえます。

② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。